

## 「二つの百年祭」関係の 歴史的公文書

市史資料室開室にあたって、中央図書館一階の展示スペースと市史資料室内の展示ケースで「二つの百年祭」をテーマに、一九五四年の開国百年祭と一九五八年の開港百年祭に関するさまざまな展示を行った（一月九日～二月一七日）。両百年祭ともに、横浜市・神奈川県・横浜商工会議所の共催によるものであり、関連する公文書の内、若干の史料が市史資料室に引き継がれている。



開国百年祭・開港百年祭に関する横浜市各課文書（左からNo.35,37,34）

展示では、その中から、「横浜開港百年祭記念写真集」収載の写真を中心に、横浜市の歴史的公文書、開国百年祭の時に横浜商工会議所会頭であった半井清が国際仮装行列で着用した法被などが出来た。

しかし、若干残されている公文書の簿冊類は、基本的な史料ではあるが、今回の展示ではほとんど紹介できていない（一部は、曾根妙子「戦後の市政記念事業と市史の編纂」『市史研究よこはま』一四、二〇〇二年において紹介されている）。

ここでは、これらの開国百年祭・開港百年祭関係の歴史的公文書の概略を紹介し、今後の利用の一助としたい。なお、これらの文書は紙質の良くない時代のもので、破損のあるものもあり、来年度以降、複製を作成し、それを閲覧に供する予定である。

※市史資料室では、庁内から歴史的公文書として移管を受けたものを「横浜市各課文書」と総称している。移管の流れ等については、文書館問題研究会・横浜開港資料館編『歴史資料の保存と公開』（岩田書院、二〇〇三年）第2部第3章（近藤裕子執筆）を参照。現在の目録作成状況は、簿冊タイトルの目録を作成している段階である。

### 一、開国百年祭

開国百年祭は、日米和親条約が締結された一八五四（嘉永七）年から一〇

〇周年にあたる一九五四（昭和二九）年四月五日（条約が結ばれた旧暦三月三日）から開港記念日の六月二日にかけて行われた。前年、各地で開国百年やペリー来航百年などの記念行事が行われる中、市は当初、記念行事には消極的であり、五三年六月には、例年通りに「開港九十五年記念みなと祭」を行っていた。しかし、九月には、県市懇談会で、横浜市が開国百年記念みなと祭の開催を提案している（『神奈川新聞』九月二二日）。この年は、市助役が米貨導入の可能性を探るためにアメリカ各地を歴訪しており、また、八月には、市長が日米太平洋沿岸市長会議に出席するため渡米しており、これらのことと開国百年記念の提案は、何か関わっているのかも知れない。その後

は、県とともに計画を作成し、後で見える計画案を経て、県・市・商工会議所の三者によって開国百年祭が挙行された。

横浜市各課文書のなかには、この開国百年祭関係の資料として、資料番号三一「開国百年祭関係綴」（総務局広報課）、資料番号三五「開国百年祭関係綴 三冊ノ二」（総務局総務課）などがある。

三一の資料は、昭和二九年完結の二種一〇年保存文書で、「横浜市文書取扱規程」（昭和三四年三月）の第一七号様式の表紙が付けられている。内容は、横浜駅前などに設置した慶祝塔（宣伝塔）関係、外国商社宛の市長のメッ

セージ、百年祭のリーフレット、ポスターの掲示関係、末尾に一九五四年一月段階の実施計画（神奈川県）や市広報統計課の予算書類・実施要項などが綴じ込まれている。

資料のいくつかを紹介すると、神奈川県知事公室企画審議課「開国百年祭行事実施計画 一県関係」（昭和二九年一月）では、記念式典の会場は平和球場で、天皇・皇后を迎える予定であった（全国植樹祭と重なったため実現しなかった）。慶祝塔関係では、予算の不足分をスタンダード石油、野沢屋、松屋、松喜屋などの市内各社の協賛でまかなったが、スタンダード石油の協賛金の送り状や、建設を請け負った会社の領収や場所の使用許可の文書などがある。また、リーフレット関係では、日本文の原稿と英文の原稿があるが、できあがった英文のリーフレットは、残念ながら綴じ込まれてはいない。

三五は、「市役所文書編さん保存規程」（昭和二五年）第四号様式の表紙がつけられているが種別等の記入はない。内容は、開国開港史蹟関係・井伊掃部頭銅像の建立並びに掃部山公園整備関係・日米和親条約調印記念碑建立関係・横浜歴史年表図絵刊行計画関係・開港記念に際しての物故功労者に対する感謝状贈呈関係・式典来賓者名簿が綴られている。

開国開港史蹟関係では、最初、事務局内で二〇箇所の候補が挙げられて（神

奈川台場・アメリカ領事館・イギリス領事館・オランダ領事館・フランス領事館・フランス公使館・戸部役所・運上所・町会所・太田陣屋・吉田橋関門・横浜製鉄所・ロシヤ士官遭難地・生麦事件・井土ヶ谷事件・ヘボン邸・高島学校・瓦斯会社・横浜ステーション・横浜郵便役所）、その後、一〇箇所に絞られて選考委員に示され、最終的に一九五四年二月二四日の実行委員会で一箇所に決まったこと、事務局案にあった「生麦事件址」が削られ、「英一番館跡」「外国宣教師宿舍跡」が追加されたことがわかる。

井伊掃部頭銅像関係では、銅像再建・掃部山公園整備の募金関係や、井伊像を造るにあたって参考とするために豪徳寺より高さ四尺の青銅像を借用したが、その関係資料などもある。日米和親条約の記念碑関係などでも、発注先や寄付などの資料が綴じられている。感謝状贈呈関係には、記念式典において表彰された一六人（浅野総一郎・井坂孝・大谷嘉兵衛・左右田喜一郎・高島嘉右衛門・中村房次郎・パーマ・原富太郎・ヘボン・美沢進・宮川香山・茂木惣兵衛・山崎紫紅・吉田勘兵衛良信・渡辺たま子・マーチン）の功績書や、市が独自で贈った青木周三・赤尾彦作ら六〇余名の名簿等がある。

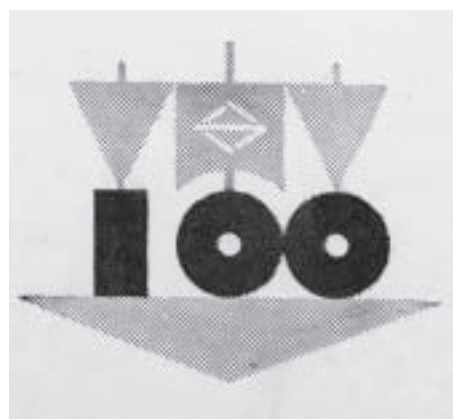
## 二、開港百年祭

開港百年祭は、一八五八（安政五）年に締結された日米修好通商条約など

に基づき、翌五九年に横浜が開港されたから、一〇〇年目にあたる一九五八（昭和三三）年五月一〇日から六月二日にかけて行われた。横浜市としては、従来から開港記念日を設けるなど「横浜開港」を重視しており、また、第二次大戦による戦災・敗戦後の接収からの復興も、開国百年祭の時と比べて進んでいたもので、より大規模に行われた。五月一〇日の記念式典は、会場が平和球場で、皇太子を迎え、三万五千人が参列して行われた。この中には、姉妹都市の米国サンディエゴ市からの使節団も含まれていた。また、開国百年祭では「市政概要」に載せられた行事等は二七であったが、開港百年祭では、協賛行事、各区での行事を加えると一〇〇以上の行事が行われた（『市政概要』一九五四年、一九五八年の各版）。

この開港百年祭関連で、横浜市各課文書に含まれている、主な簿冊は次の通りである（番号は資料番号）。

- ・二九「開港百年記念式典名簿（局別原本）」（総務局）
- ・三〇「開港百年記念式典招待者名簿作成関係書類」（横浜市総務局）
- ・三一「開港百年祭顕彰者調査書」（総務局）
- ・三三「開港百年祭 予算関係書 第一号」（総務局総務課）
- ・三四「開港百年祭 予算関係書 第三号」（総務局総務課）
- ・三六「開港百年祭関係綴」（総務局）
- ・三七「開港百年祭関係綴」（総務局）



開港百年祭記念章

二九・三〇は、「横浜市文書取扱規程」第一七号様式の表紙がつけられた完結三三年度、一種（永年保存）の簿冊である。二九は、局別原本とあるように手書きやタイプ打ちなどの名簿を加除の作業をしたもの。三〇は、孔版印刷をされた実行委員会、国内招待者、外国招待者の名簿である。

三六と三七は、昭和三三年完結の総務局総務課庶務係の起案文書や供覧文書等で、開港百年祭実行委員会事務局総務部関係の資料である。表紙は、「市役所文書編さん保存規程」第四号様式のものだが、廃棄年度や種別の記載はない。

三七は、昭和三二年一〇月二二日決裁の「開港百年祭実行委員会の準備委員会の発足について」から、翌年六月までの文書綴で、記念切手や記念煙草についての依頼、大横浜展関係、記念章（ロゴマーク）の普及関係、表彰対象者の功績調書や記念式典関係などや、各行事で使用したフライヤーの借

用関係など様々な資料が綴じられている。また、事務局の文書の統一に関する文書もある。

このうち、毎日新聞社主催の大横浜展は、「この祭典をたゞのお祭りさわざぎに終始すべきものではないと存じ」 「黒船来る開港前から幾多の変遷を経て現在に至るミナトヨコハマの姿を時代考証に則つたセットパノラマ、横浜絵（錦絵）文献資料などで多角的に表現するほか現代横浜産業界の進展までを明確に顕わし、さらに今後の問題となつている第三の火原子力をふくめて過去、現在、時事の問題を一目でわかるように仕組まれております」との趣旨で、過去だけでなく原子力の平和利用を最後としているなど時代が現れている。同展では、原子力に関する展示として、県企業庁が製作した「原子力に関する模形」を使つており、この借用についての文書も残っている。

三六は、招待者名簿作成のための元助役・収入役の消息調査など招待者関係と、市政概要に百年祭の概要を掲載するための各担当の報告書などである。『市政概要』一九五八年版では、記念式典、国際仮装行列、井伊掃部頭その他物故功労者感謝祭の三行事と広報については比較的詳しく載せているが、その他の行事は一覧表のみである。

たとえば、記念式典の日に行われたガーデンパーティーについては、市政概要では一覧表のみであるが、報告書には「五月十一日午後三時三十分より磯子

区間坂のプリンスホテルにおいてサンデイゴ市民団を始めとする外国人、県下選出代議士市会議員他市内官公庁会社等の来賓、併せて六〇〇名（外国人二四〇名日本人三六〇名）を招待した。当日は晴天に恵まれ庭園に日本料理・中華料理・飲料物等の模擬店を開店、何れの店も満員の盛況であった。当日の余興として東京ビューティガールズ・スミスブラザーズを招聘しフロアショウ自転車曲乗り野毛商店街の人々による「異人館と兵隊さん」を披露した。」とあり、野毛商店街が、この年の国際仮装行列における出し物（徒歩の部一等）を披露しているなどパーティの様子が分かる資料である。

そのほかにも、経済局が担当した野毛山子供カーニバルでフランク永井ショーが行われたことや、交通局の花電車が五月一一・一二・一五日に雨天で運行を中止したなど、新聞記事にはなっていないが、市政概要では削られてしまった記述がある。

また、今回の展示を見られた方から、百年祭の時に学校で鉛筆をもらったことのお話があったが、市政概要には記述が無く、この資料に綴じられている中区の報告書に「百年祭記念鉛筆の配布」として「五月十日の記念式典当日、区内小、中学校及び水上学校児童生徒一五、〇〇〇名に開港百年記念名入り鉛筆を配布した」との記述や、「区別旗（鉛筆）配布数一覧表」、鉛筆と旗の各区の受領書もあり、また、後述の三三三

も、小中学生を対象とした各区の旗行列の記念品として鉛筆を作る計画であることが行事計画書に記載されており、証言が裏付けられた。

三三三と三四は、先述の一七号様式の表紙、完結三三三年度、廃棄三三三年度の四種の資料で、三三三が第一号、三四が第二号とあるので、第二号が残っていない。

三三三では、行事の予算や様々な領収証のほか、「愛市の花」販売の一件書類がある。「愛市の花」は、みなと祭などの運営の資金の一部にするために、以前から市が頒布しているもので、一九五八（昭和三三）年には、一八万個が作成され、そのうち一七万八千個が一個一〇円で各局区などを通じて売られた。製作単価二四四〇銭、販売手数料一円、他に、販売のピラなどの宣伝費を差し引いたものが「みなと祭」の経費として使われた。簿冊には、つぶれて色は褪せてはいるが、「愛市の花」の見本が残っており興味深い。



「愛市の花」の見本

協賛行事の予定が包括的に分かる資料である。両簿冊ともに、四種であるが、開港百年祭の行事内容が分かる重要な資料であり、保存年限だけでは歴史的公文書としか判断をしない例である。

そのほか、展示をしたものの関係資料として、海外の各市長などからの祝辞がある。展示では、米国ロサンゼルス市長と中華民国台湾省基隆市長を使用したが、そのほかにアイゼンハワー米大統領祝辞の大使館プレスリリース（一八三八―一五）や、ホノルル市長（一八三八―一七）、ロサンゼルス市長（一八三八―一九）の祝辞もある。

最後に、今回の展示で最も利用した三三三「横浜開港百年祭記念写真集」についてふれておこう。この写真集は、開港百年祭後に刊行された写真集の原本で、約七〇×五六センチメートルのアルバムに、写真が貼付してある。

刊行本の編集後記には、「この写真帖〔刊行本―筆者注〕は、開港記念百年祭の主な行事の写真、一二四枚を収録したものである。百年祭の記念行事は、昭和三十三年五月一日から一ヶ月に亘って、間断なく各種のものが行われたので、当初の予定は、一五〇枚程度のもを写真版で印刷し、後日記録としても当時が充分扱われるものにするつもりであったが、予算の関係で、ご覧のとおり、枚数も大きさも集約され形もタブロイド版（二〇×二七センチ

街頭ファッション・ショウ（横浜洋装聯盟）  
（「開港百年祭記念写真集」より）

チメートル―筆者注）に変わってしまった次第である。ただし、原本の方は、縦五拾六厘、横七拾厘の総ビロイド張のものに、この選に洩れたものも広く集めて、三部を作成し、県、市、商工会議所にそれぞれ一部ずつ記念として保存されているから、有用の際は充分に間に合うわけである」と書かれており、三部の内の横浜市分が、現在、市史資料室に保存されている。

この原本には、一四八枚の写真が貼付しており、この枚数は、原本・刊行本の平沼市長の序文に書かれている数と一致する。先に見た資料番号三六に収載されている記録部の資料を見ると、刊行本はB四判五〇頁を予定していたが、「編集後記」にあるように、予算の関係で小型判になってしまっている。市史資料室では、原サイズではないが、刊行本より大型の複写を閲覧できるようにしている。

展示資料一覧

No.	資料名	年次(開催期日等)	出典
1	開国百年祭記念式典(写真)	1954年4月5日	『市政概要』一九五四年版
2	開国百年祭記念パーティー(写真)	1954年4月5日	株式会社ホテル、ニューグランド提供
3	開国百年祭 みなと祭り国際仮装行列	1954年5月22日	半井清資料
4	横浜史跡のしるべ(写真)	1954年4月	河合光栄家資料
5	開国百年記念歴史展(写真)	1954年5・6月	〔開国百年記念歴史展アルバム〕
6	開国百年祭記念式典招待状	1954年3月15日	河合光栄家資料
7	開国百年祭のパンフレット	1954年4月	河合光栄家資料
8	開国百年祭国際仮装行列のはっぴ		半井清資料
9	開国百年記念 絵入り横浜歴史年表	1954年4月5日	河合光栄家資料
10	市電、市バスの開国百年祭記念乗車券	1954年4月5～7日	横浜市各課文書
11	開国百年記念歴史展目録	1954年5月27日	市史資料室
12	開国百年記念歴史展絵はがき	1954年5月	横浜市各課文書
13	開港百年祭ポスター(複製)	1958年	横浜市各課文書
14	記念式典会場となった平和球場(写真)	1958年5月10日	横浜市各課文書
15	記念式典会場に入場する皇太子(写真)	1958年5月10日	※
16	記念式典における功労者の表彰(写真)	1958年5月10日	※
17	開港百年祭祝賀リセプション(写真)	1958年5月10日	※
18	選定歌 横浜開港百年の歌 歓喜の港(複製)	1958年	横浜市各課文書
19	「歓喜の港」の発表指導会(写真)	1958年5月	※
20	記念式典における「歓喜の港」の合唱(写真)	1958年5月10日	※
21	国際仮装行列に参加する市長等(写真)	1958年5月11日	半井清資料
22	国際仮装行列の野毛商店街の行列(写真)	1958年5月11日	※
23	サンディエゴ使節団の到着(写真)	1958年5月8日	※
24	横浜・サンディエゴ都市提携式(写真)	1958年5月9日	※
25	サンディエゴ市へ友好の鐘を贈呈(写真)	1958年5月	※
26	国際仮装行列に参加するサンディエゴ使節団(写真)	1958年5月11日	※
27	横浜市電の花電車(写真)	1958年5月10日	※
28	横浜開港記念バザー(写真)	1958年5月9～18日	※
29	井伊掃部頭その他物故功労者感謝祭(写真)	1958年5月18日	※
30	農業祭 娘牛展示会(写真)	1958年5月6日	※
31	岡倉天心の生誕碑除幕式(写真)	1958年5月16日	※
32	大横浜展(写真)	1958年5月9～21日	※
33	市庁舎立柱式(写真)	1958年6月23日	『市政概要』1958年版
34	横浜開港百年祭のパンフレット	1958年	横浜市各課文書
35	横浜開港百年祭記念バッジ(箱入)	1958年	「横浜の空襲と戦災」資料
36	横浜開港100年祭バッジデザイン案	1958年1月25日	横浜市各課文書
37	目で見える横浜百年史 開港百年記念グラフ	1958年5月1日	横浜市各課文書
38	開港百年祭記念海外宣伝映画 ヨコハマ(第二稿)	1958年	横浜市各課文書
39	アメリカロサンゼルス市長の祝辞	1958年3月22日	横浜市各課文書
40	中華民国台湾省基隆市長の祝辞		横浜市各課文書
41	『横浜開港百年祭記念写真集』	1958年7月	横浜市各課文書

出典欄、※はNo.41『横浜開港百年祭記念写真集』(横浜市各課文書)収載写真。